

曾虚白氏のこと

樽本照雄

曾孟樸の長子虚白氏が台北に居住していることを教えて下さったのは、香港から帰国されたばかりの相浦杲氏であった。今から1年以上も前のことである。

その時の感じを率直に記すと、国語の教科書で名前だけは知っている明治の作家が、長らく文章を発表していないため、すでに過去の人であると一人勝手に決めていたのが、何かの拍子に消息が伝えられ、「へえ、あの人が……」と今さらながらに驚くという、ちょうどそんな具合だった。

私が虚白氏の名前を知ったのは、『宇宙風』に連載された「曾孟樸先生年譜」の筆者としてだけであったが、年譜のほかには台湾世界書局版『魯男子』に「魯男子的写作動機与計画」(1959.8)を、『伝記文学』第8巻第3期(1966.3.1)に旧稿「哭父文」を、同じく『伝記文学』第24巻第5期(1974.5.1)に「李著陳訳先父文学旅程前言」という文章を発表されている。曾孟樸に関するものだけでも以上数点あり、「過去の人」というのはまったく私一人の思い違いであることがわかる。だがしかし、なぜそういう誤解をしていたのだろうか。私自身の無知を棚上げしていえば、現在まで日本には『孽海花』について述べた文章はあっても、曾孟樸その人に関して書かれたもの

はないことと無関係ではないかも知れない。

それはさておき、次に虚白氏の略歴を、橋川時雄『中国文化界人物総鑑』(中華法令編印館 1940. 10. 25)によって紹介したい。〔 〕内は筆者註。

曾虚白 一八九四——×〔×は1940年時点で現存者を表わす〕原名は燾，字は煦白〔袁湧進編『現代中国作家筆名録』北平中華図書館協会 1936 大安影印 1968.5 では曾煦伯とする〕，筆名は虚白，いま筆名で行はる。曾樸の子〔母は沈晋祥梅孫の娘沈香生，弟は耀仲，のち医師〕，江蘇常熟の人。上海聖約翰大学の文学士〔聖約翰大学はその名が示すようにカトリック教会の経営する大学である。1845年(道光25)アメリカカトリック教会主教ブーンが上海に設立した約翰学院を前身とし，1906年アメリカ・コロムビア区の教育令に準拠して総合大学の認可を受け，アメリカの対華文化事業の有力な拠点となった。1919年燕京大学等14校の教会関係の大学が連合組織を作ったが，その1920年の調査によると全大学総学生数2017名のうち，聖約翰大学の学生は239名で，これは燕京大学273名に次ぐ。北京の燕京・清華両大学とならんで，政界・学界

に著名人を送り出した。郭秉文「五十年来中国之高等教育」『最近之五十季』所収申報館、『アジア歴史事典』5 平凡社 1960. 8. 30], 在校当時から同校の校刊「約翰声」の編輯に従事した。長沙湘雅大学英文教授 [李立明『中国現代六百作家小伝』香港波文書局 1977. 10 には、長沙「湘雅医学院」、長沙「雅礼大学」で教鞭をとるとある], 財政部関稅委員, 煙酒事務署秘書, 天津交渉公署第一科長並に會計処主任, 江蘇省公署顧問, 交通部秘書, 国民政府參軍処參議, 金陵女子大学中国文学系主任に歴任, また上海にて其の父曾樸と「真善美」月刊 [正しい雑誌名は『真美善』, 1927年11月1日創刊, 第1巻12冊は半月刊, 第2巻より第7巻3号まで月刊, 1931年4月より季刊で2号を發行, 全47冊, 京都大学所蔵, なお一周年記念号外「女作家專号」1冊 (未見) あり] を發行して真善美書店を經營し, 「大晩報」 [1932年2月上海で創刊, 議論とニュースの両方を重視する編集方針で, 發行数カ月足らずで販売数8万部に達した。曾虛白主編『中国新聞史』国立政治大学新聞研究所 1966. 4 初版 1677. 3 四版] を創刊して自ら社長及び総主筆になったこともある。其の訳著に「英雄与英雄崇拜 (英 T. Carlyle 原著 民国二十一年商務印書館出版), 及び「鬼」(真美善書店) [Fairy Tales オスカー・ワイルド原著] 「断橋」(中華書局) 「人生小諷刺」 [Life's Little Ironies トーマス・ハーディ原著] 「色的熱情」(真美善書店) [Couleurs レミ・ド・グルモン原著] 「娜娜」 [ナナゾラ原著『真美善』季刊第1巻第1～2号に一部連載], 「欧米名家小説集」, 「目視的蘇俄」 [シオドー・ドライサー原著] 等があり, 其の創作に「徳妹」 [短篇小説第1集], 「高竜巴」 [あるいは哥

竜巴, コロンバ, プロスペル・メリメ原著の翻訳である], 「魔窟」 [短篇小説第2集], 「潜熾の心」 [小説第3集], 「三稜」 [長篇小説], また別に「英文学ABC」「米国文学ABC」(民国十八年世界書局出版), 「大晩報評論集」, 「漢訳東西詩文学作品編目」(十八年真美善書店印)。

以上が橋川時雄『中国文化界人物総鑑』の虚白氏の項であるが, 以下にそれ以後をつけ加える。

1943年, 中央政治学校に設立された新聞学院の副院長となったが, その時の肩書きは国際宣伝処処長である。1950年台湾に移った中央通訊社の社長に就任, 1954年台湾国立政治大学新聞研究所主任, 現在中国文化学院三民主義研究所博士班專任教授兼任主任。

父孟樸と真美善書店 (父子書店と当時呼ばれていた) を經營していた頃は, 作家翻訳家としての活躍が目立つが, 『大晩報』の創刊を境にして, 新聞界・放送界の仕事が多くなっていることが以上の略歴からもわかる。最近の編著には前出『中国新聞史』の他に, 20年間中国廣播会社のラジオ番組で行なった時事評論をまとめた『談天下事』2冊 (韓戦年代集 1970. 9 越戦年代集 1971. 9 ともに台湾商務印書館) 等がある。

孟樸はユゴーの作品を多く翻訳し, 自らの書店より發行していることが知られている。また, 「象記」と題する自伝体の回憶録, そのほか詩集が数種あることも虚白作「年譜」に見える。虚白氏との連絡がついて, 私の知りたかったことのひとつは, これら翻訳書, 未発表原稿はどうなっているかということだった。日本のいくつかの図書館, あるいはいくつかの研究者に, 孟樸

訳のユゴー物の所蔵の有無を調べたずねてはみたが徒勞に終わっていたあとだけに、虚白氏の存在はひとつの可能性を与えてくれるものだと思った。曾孟樸編著訳目録の草稿をお送りし、著作・発行年月日についてご教示をお願いした。しかし、資料の所有については何ら言及がない。よくよくたずねてわかったのは、原稿も関係書籍も手元にはないという事実であった。孟樸関係の一切をまとめ、弟に保管をたのみ上海を

あとにしたが、すでにその弟は死んでしまいい、その後それらの資料がどうなっているのかまったくわからないということだった。いささかの失望。だが、今は行方不明であっても、将来発表される可能性が残されているということもできよう。

本誌「曾孟樸アルバム」の写真は虚白氏の提供になるものである。ここに記してお礼を申し上げます。

(たるもと てるお)